



痛風検査

何をする検査？

腕から、通常の採血検査を行います。

何を見ているの？

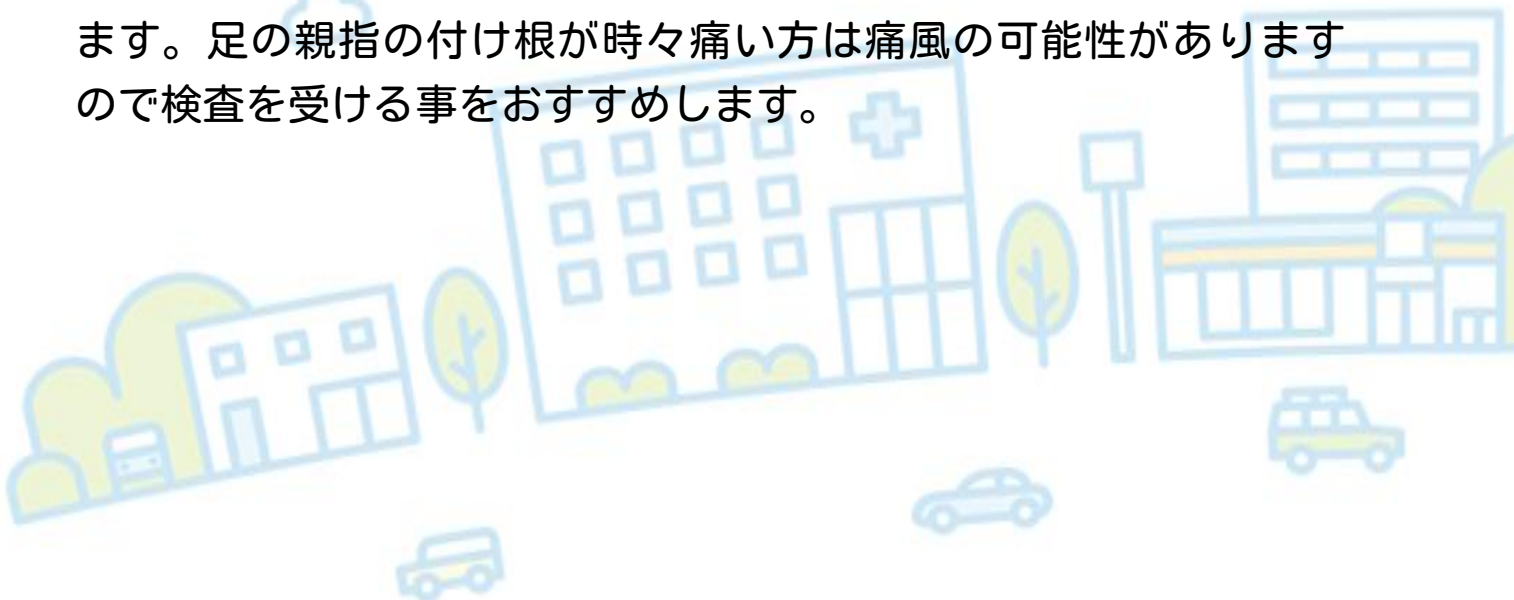
採血をした血液中に、尿酸といわれる痛風の原因となる物質がどれくらい含まれているかを見ています。

何がわかるの？

尿酸の量を見ることで、尿酸の元となるプリン体を多く含む食べ物を摂り過ぎていないか、腎臓が正常に働いているかなどがわかります。

どんな人におすすめ？

ビールをよく飲む方や肥満気味の方は、尿酸値が高い傾向にあります。足の親指の付け根が時々痛い方は痛風の可能性がありますので検査を受ける事をおすすめします。



● 尿酸：UA (mg/dl)

【～5.9】
正常

【6.0～6.9】
高値

【7.0～9.0】
高尿酸血症

【9.1～】
重度

尿酸値が高値の場合、生活習慣の見直しや改善を行い、飲酒（特にビール）を控え、適度な運動をしましょう。生活習慣の改善後、再度検査を受けてみましょう。2回以上高い数値が出た場合には、受診をおすすめします。

『痛風』とは、プリン体といわれる体の細胞にとって必要不可欠な物質が分解されるときに産生される『尿酸』が、体内に過剰になることによって引き起こされる病態です。原因としては、プリン体を多く含む飲食物を多く摂取している場合や、腎臓の排泄機能が落ちていることが考えられます。

症状としては、尿酸が結晶化し関節に付着し、そこに炎症が起こり激痛が走る痛風発作が起こります。炎症が起こるのは親指の付け根が一番多い場所とされています。痛風発作以外にも、尿酸値が高い状態が続くことで、腎結石や尿路結石ができることがあります。

検査の結果は、医学的な診断を示すわけではありません。検査結果が気になる方は、検査結果をお持ちの上、受診をしてください。